

70
1945-2015



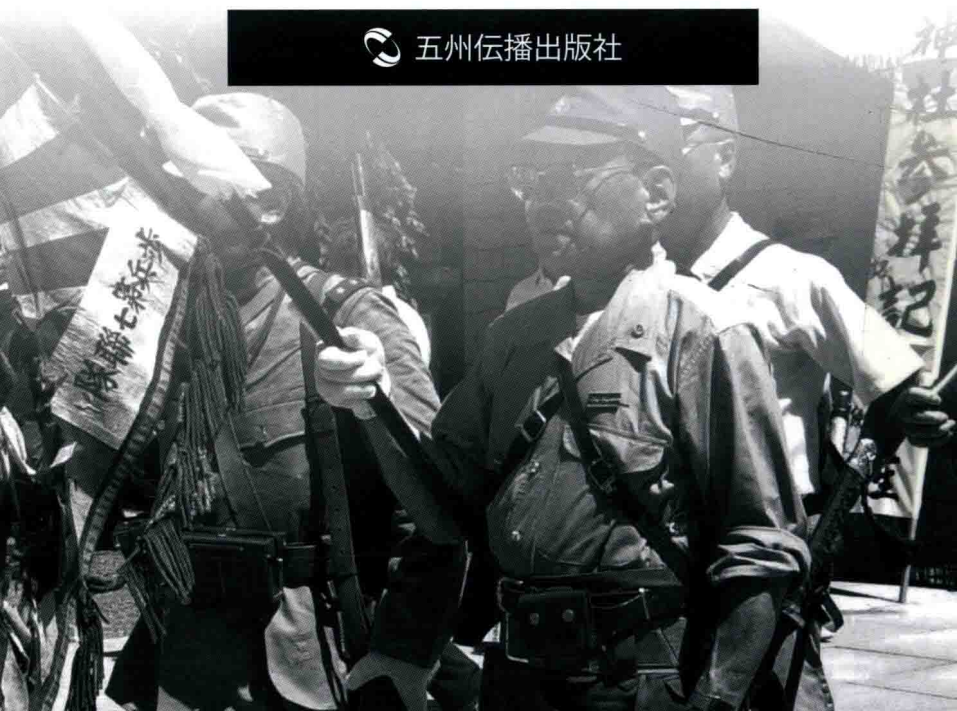
歴史は忘れるべからず
世界反ファシスト戦争勝利70周年を記念して

日本の 右翼 問題研究

歩平、王希亮 著



五州伝播出版社



歴史は忘れるべからず

反ファシスト戦争勝利70周年を記念して

日本の 右翼 問題研究

歩平、王希亮 著



五州伝播出版社



图书在版编目 (CIP) 数据

日本右翼问题研究: 日文 / 步平, 王希亮著. —北京: 五洲传播出版社, 2015.8

ISBN 978-7-5085-3208-0

I. ①日… II. ①步… ②王… III. ①政治—研究—日本—日文 IV. ①D731.3

中国版本图书馆CIP数据核字(2015)第178399号

“历史不容忘记——纪念世界反法西斯战争胜利70周年”系列

监 制 / 国务院新闻办公室

出 版 人 / 荆孝敏

统 筹 / 付 平

Japanese Translation © Akashi Shoten

日本右翼问题研究

著 者 / 步 平 王希亮

翻 译 / 山边悠喜子 宫崎教四郎 和田千代子 斋藤一晴 奥村正雄

责任编辑 / 高 磊

装帧设计 / 北京原色印象文化艺术中心

出版发行 / 五洲传播出版社

地 址 / 北京市海淀区北三环中路31号生产力大楼B座7层

电 话 / 010-82005927 82007837

网 址 / www.cicc.org.cn

承 印 者 / 中煤涿州制图印刷厂北京分厂

版 次 / 2015年8月第1版第1次印刷

开 本 / 889 × 1194毫米 1/16

印 张 / 29

字 数 / 400千

定 价 / 228.00元

目次

日本語版への序文	3
----------	---

序論 歩平

(一) 右翼に出会った経験から	10
(二) 日本の右翼団体と右翼思潮	14
(三) 日本の「右翼」の概念について	18
(四) 戦前日本の右翼の運動と国家権力との関係	23
(五) 戦前日本右翼の影響力	28
(六) 世界的な右翼問題	31

戦前の右翼 歩平

第一章 右翼思想と右翼運動の発生	38
------------------	----

(一) 国家主義と民族主義—右翼思想の起源	38
-----------------------	----

(一) 早期の右翼運動……………67

(三) 国粹主義型「観念右翼」の基本特性……………87

第二章 国家革新運動と二〇世紀初期右翼運動の変遷……………91

(一) 国家革新運動中の右翼の両極分化……………91

(二) 北一輝と大川周明の右翼思想……………107

(三) 二〇世紀初めの民間右翼の思想……………119

(四) 二〇世紀初期の日本右翼運動と思潮の特色……………138

第三章 日本を戦争の道へ導いた軍隊ファシズム右翼……………142

(一) 軍隊右翼が活発化した背景……………142

(二) 少壮派軍人と右翼団体の軍事クーデター……………155

(三) 右翼軍人と侵略戦争……………184

(四) 大正末期から昭和初期の右翼の特徴……………202

(五) 戦争体制下の右翼団体……………211

戦後の右翼 王希亮……………

第四章 米軍占領時期の右翼勢力……………226

(一) 頑固派右翼に対する対策……………226

(二) 右翼団体解散命令	229
(三) 東京裁判の右翼勢力に対する寛容と放縱	232
(四) 石原莞爾がマッカーサーに送った「建白書」	236
(五) 極端な民族主義団体の台頭	239
第五章 サンフランシスコ条約と右翼の蘇生、復活	245
(一) 民主化の逆流	245
(二) 寛大と単独講和のサンフランシスコ条約	248
(三) 旧右翼団体の復活及びその特徴	251
(四) 右翼復活後の社会活動	258
第六章 岸信介内閣の反動政治と右翼運動の高まり	265
(一) 岸信介内閣の逆行措置及び右翼との関係	265
(二) 新安保体制の確立と右翼促進運動	272
(三) 三池争議、安保闘争の余波及び右翼勢力の反撃	279
第七章 新右翼の登場と「民族派運動」	286
(一) 新右翼学生団体及びその極端な民族主義的政治観	286
(二) 三島由紀夫事件	291
(三) 「民族派運動」の展開とその特徴	300

第八章 七〇年代の右翼「昭和維新運動」……………311

(一) 「七〇年危機」前の右翼団体の状況……………312

(二) 右翼の「昭和維新運動」……………318

(三) 右翼団体の資金問題……………329

第九章 新保守主義時代の右翼……………334

(一) 自民党政治の右傾化……………334

(二) 新保守主義時代の右翼運動の新しい動向……………343

(三) 新右翼と極端主義のテロ活動……………355

(四) 戦後五〇年右翼の活性……………365

第二十章 文化教育界における右翼団体の形成及びその活動……………374

(一) 文化教育界右翼団体の形成及び理論的観点……………375

(二) 第三回教科書攻撃の逆流……………406

(三) 政府、議会、政権与党の高官、実力者と右翼団体は気脈を通じ、

協力して歴史修正主義運動を推し進めた……………425

(四) 教科書問題は終わっていない……………431

結 び

王希亮

439

(一) 戦後右翼が繁殖し、育成される土壌

439

(二) 戦後右翼の継続とその基本的特性

442

(三) 戦後右翼と執政当局、政党、宗教の関係

445

(四) 戦後右翼運動の代表的人物とその思想

450

訳者あとがき

461

歴史は忘れるべからず

反ファシスト戦争勝利70周年を記念して

日本の 右翼 問題研究

歩平、王希亮 著



五州伝播出版社



图书在版编目 (CIP) 数据

日本右翼问题研究: 日文 / 步平, 王希亮著. —北京: 五洲传播出版社, 2015.8

ISBN 978-7-5085-3208-0

I. ①日… II. ①步… ②王… III. ①政治—研究—日本—日文 IV. ①D731.3

中国版本图书馆CIP数据核字(2015)第178399号

“历史不容忘记——纪念世界反法西斯战争胜利70周年”系列

监 制 / 国务院新闻办公室

出 版 人 / 荆孝敏

统 筹 / 付 平

Japanese Translation © Akashi Shoten

日本右翼问题研究

著 者 / 步 平 王希亮

翻 译 / 山边悠喜子 宫崎教四郎 和田千代子 斋藤一晴 奥村正雄

责任编辑 / 高 磊

装帧设计 / 北京原色印象文化艺术中心

出版发行 / 五洲传播出版社

地 址 / 北京市海淀区北三环中路31号生产力大楼B座7层

电 话 / 010-82005927 82007837

网 址 / www.cicc.org.cn

承 印 者 / 中煤涿州制图印刷厂北京分厂

版 次 / 2015年8月第1版第1次印刷

开 本 / 889 × 1194毫米 1/16

印 张 / 29

字 数 / 400千

定 价 / 228.00元

日本語版への序文

本書は日本の右翼問題に関する研究書であり、元々は中国の読者のために中国語で書いたものである。

「左翼」と「右翼」は本来フランス革命の時の概念で、元の意味は、憲法制定会議で、議長の下側に座った市民と農民による第三階級の自由派の議員と右側に座り君主制と貴族の特権を擁護する貴族、即ち、第二階級の議員を指している。

フランス革命の十年間（一七八九～一七九九）、左翼は革命を支持する進歩派、右翼は君主制度を支持し、歴史の潮流に逆らい、誤った方向に動く保守派と見做された。しかし、フランス革命は世界史上かつてない激しい革命で、その激しさは、到底イギリスあるいはアメリカ革命の比ではなかった。そして革命の嵐が過ぎて社会の理性的思考が回復されるや、人々は、左翼即進歩、右翼即保守だと覚った。錯誤の経緯は至って簡単だが、根本には、十分に解釈できない複雑な社会現象があった。そして「右より左が良い」という認識は巨大な衝撃を受けた。特に近年、フランス人の右翼に対する感情は独特で、二〇一四年のヨーロッパ議会選挙では、極右政党の国民戦線（Front National）が二五%近い得票を獲得し、極右政党がフランスにおけるヨーロッパ議会の第一党になったほどだ。

考えると、中国革命はその激しさと長さの点で、フランス革命の政治的性格とたいへん似ている。しかし、革命の成功後二〇世紀の大部分の間、革命は依然として神聖不可侵の概念になっている。従って、長い間、左は即革命、右は即保守、「反革命」「左は右より良い」と考える単純な論理がずっと深々と中国の政治に影響してきた。このような論理によれば、「日本の右翼」は、当然「反革命」とされ、「侵略戦争」「反中国」「保守」の概念に近づき、ほとんど同等の政治的概念になってしまう。

このように考える筋道は合理的な根拠がないとは言えないが、我々はその重要な欠陥を指摘する必要がある。それは、不正確で非科学的な判断であるという問題だ。我々は特に、日本の右翼を征伐すると単純に判断するある種の中国人の目を醒ましたいと思う。それは、日中両国の問題を解決する助けにはならない。このため、我々は、中国の読者が単純な論理から離脱して、日本の右翼問題の実証的で深い研究を理解し、単純化された政治的スローガンに頼る思考様式から卒業することを望んでいる。

しかし、日本の読者に対して、我々が強調したいのはどんな問題だろうか。勿論、日本の読者と中国の読者は異なる環境下であり、本書の中で、中国の読者から見れば見知らぬ歴史でも、日本の読者には普及している常識だ。従って、中国の学者として、我々は『日本の右翼』の分析を通して、日本の読者に我々の感得したものを伝えたい。つまり、日本の民族主義は戦前日本右翼の思想の源だが、日本の民族主義は戦前、次第に極端に、即ち戦争に向かつて走った。戦後日本の右翼は、表面では、正当な個人の使命感と責任感を強調しながら、実は日本に必要な民族優越感の強調に進み、戦争責任を回避する種々の行動によって、その思想が戦時の軍国主義と密接な関係があることを暴露した。これにより、人々の警戒心を引き起こしたのは当然だった。

日本の軍国主義はあの戦争を引き起こし、中日両国に巨大な傷害をもたらした。再びあのような戦争を起こさないために、中日両国の民衆が共同して歴史の教訓をまとめることが、特に必要だ。近年、中日両国の学者はすでに各種形式の歴史共同研究を展開している。

もし、この本の日本語版が日本の学者の関心を引き起こすことができ、論争や討論を生むならば、戦後七〇年の最良の記念となるだろう。

二〇一五年六月

目次

日本語版への序文	3
----------	---

序論 歩平

(一) 右翼に出会った経験から	10
(二) 日本の右翼団体と右翼思潮	14
(三) 日本の「右翼」の概念について	18
(四) 戦前日本の右翼の運動と国家権力との関係	23
(五) 戦前日本右翼の影響力	28
(六) 世界的な右翼問題	31

戦前の右翼 歩平

第一章 右翼思想と右翼運動の発生	38
------------------	----

(一) 国家主義と民族主義—右翼思想の起源	38
-----------------------	----

(一) 早期の右翼運動……………67

(三) 国粹主義型「観念右翼」の基本特性……………87

第二章 国家革新運動と二〇世紀初期右翼運動の変遷……………91

(一) 国家革新運動中の右翼の両極分化……………91

(二) 北一輝と大川周明の右翼思想……………107

(三) 二〇世紀初めの民間右翼の思想……………119

(四) 二〇世紀初期の日本右翼運動と思潮の特色……………138

第三章 日本を戦争の道へ導いた軍隊ファシズム右翼……………142

(一) 軍隊右翼が活発化した背景……………142

(二) 少壮派軍人と右翼団体の軍事クーデター……………155

(三) 右翼軍人と侵略戦争……………184

(四) 大正末期から昭和初期の右翼の特徴……………202

(五) 戦争体制下の右翼団体……………211

戦後の右翼 王希亮

第四章 米軍占領時期の右翼勢力……………226

(一) 頑固派右翼に対する対策……………226

(二) 右翼団体解散命令	229
--------------	-----

(三) 東京裁判の右翼勢力に対する寛容と放縱	232
------------------------	-----

(四) 石原莞爾がマッカーサーに送った「建白書」	236
--------------------------	-----

(五) 極端な民族主義団体の台頭	239
------------------	-----

第五章 サンフランシスコ条約と右翼の蘇生、復活

(一) 民主化の逆流	245
------------	-----

(二) 寛大と単独講和のサンフランシスコ条約	248
------------------------	-----

(三) 旧右翼団体の復活及びその特徴	251
--------------------	-----

(四) 右翼復活後の社会活動	258
----------------	-----

第六章 岸信介内閣の反動政治と右翼運動の高まり

(一) 岸信介内閣の逆行措置及び右翼との関係	265
------------------------	-----

(二) 新安保体制の確立と右翼促進運動	272
---------------------	-----

(三) 三池争議、安保闘争の余波及び右翼勢力の反撃	279
---------------------------	-----

第七章 新右翼の登場と「民族派運動」

(一) 新右翼学生団体及びその極端な民族主義的政治観	286
----------------------------	-----

(二) 三島由紀夫事件	291
-------------	-----

(三) 「民族派運動」の展開とその特徴	300
---------------------	-----

第八章 七〇年代の右翼「昭和維新運動」……………311

(一) 「七〇年危機」前の右翼団体の状況……………312

(二) 右翼の「昭和維新運動」……………318

(三) 右翼団体の資金問題……………329

第九章 新保守主義時代の右翼……………334

(一) 自民党政治の右傾化……………334

(二) 新保守主義時代の右翼運動の新しい動向……………343

(三) 新右翼と極端主義のテロ活動……………355

(四) 戦後五〇年右翼の活性……………365

第二十章 文化教育界における右翼団体の形成及びその活動……………374

(一) 文化教育界右翼団体の形成及び理論的観点……………375

(二) 第三回教科書攻撃の逆流……………406

(三) 政府、議会、政権与党の高官、実力者と右翼団体は気脈を通じ、

協力して歴史修正主義運動を推し進めた……………425

(四) 教科書問題は終わっていない……………431

結 び

王希亮

439

(一) 戦後右翼が繁殖し、育成される土壌

439

(二) 戦後右翼の継続とその基本的特性

442

(三) 戦後右翼と執政当局、政党、宗教の関係

445

(四) 戦後右翼運動の代表的人物とその思想

450

訳者あとがき

461